二瓶暢祐教授退職記念号によせて

経済学部長・経済学会長　長谷部秀孝

二瓶先生は2003年３月をもって定年で退職となられました．先生は，1971年の創価大学開学以来，ずうっと草創期の経済学部，それ以上に創価大学全体の運営に携わっていらしたわけです．その二瓶先生がいらっしゃらなくなるということで，経済学部もいよいよ寂しくなったという思いが募って参ります．

私が創価大学に赴任した時の学部長は二瓶先生でした．今思えば，私の採用人事が起こった時分は，二瓶先生も学部長になりたてのほやほやであったわけで，二瓶先生の学部長時代の16年間に私は鍛えられたということになります．二瓶先生のお人柄は温厚そのものでした．先生が声を荒げるのを聞いたことがないというのは私一人ではないはずです．怒ってすぐに大きな声を出す私などには，学部長として理想のお手本ではないかと思っております．いつもにこやかなお顔で，私たちは先生にお会いすると本当にほっとしました．

先生が学部長をなさっていた16年間は経済学部が徐々に変化しなければならない時期でした．その間に経済学部は他の学部に率先して様々な改革を行ってきました．経済学部が率先して何かをすると，必ず他学部からは批判が出ました．しかし，経済学部でうまくいっているのを見て，他学部も追従するのが常でした．二瓶先生は学部長として，率先してそのような変革を進めてこられました．もし学部長が偏狭な考えの持ち主であれば，決して改革は出来なかったし，現在のような経済学部にはならなかったと思います．また，どのような考えでも受け入れていただけ，現在のような誰でもが何でも言えるという経済学部の雰囲気も，二瓶先生のような学部長が上に立たれていたからこそ出来たのです．そのような二瓶先生がもう傍にいられないのです．

一時期体調を崩されていらっしゃいましたが，だいぶ回復なさったようです．まだまだ現役の学者として活躍なさるとともに，これからも度々大学においでになり，「君たちのしていることはまだまだだよ」と私たちに活を入れて頂きたいと思います．